

目指す学校像	「地域から信頼され、地域とともに歩み、生徒・教職員一人ひとりの自己実現・Well-being が図れる学校」
--------	--

重点目標	1 真の学力の向上。(21世紀型スキルの育成) 2 安心・安全な環境の下、心豊かな生徒の育成。 3 コミュニティースクールを核とした地域と一体となった教育活動の展開。 4 持続可能な新しい学校の在り方を求める教職員の育成
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価		
年度		目 標	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
番号	現状と課題	評価項目					学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<現状> ○令和4年全国学力・学習状況調査では、国語は全国平均にあと少し、数学はやや上回っており、理科はほぼ全国平均であった。 ○授業は落ち着いて受けているが、知識の定着度や理解度に個人差がある。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果から国語は書くこと、情報の扱い方に関する事項に課題が見られる。数学はデータの活用にやや課題が見られる。理科はエネルギー、生命分野にやや課題が見られる。 ○令和4年度学校評価生徒保護者アンケートでは、家庭学習を行っている肯定的に回答した割合は65%。	・市学力テスト市学習状況調査結果が向上しているか。 ・情報活用能力の向上 ・学ぶ意味と楽しさを実感させSDGsやSTEAMS教育を通して実社会の課題解決の場面を設定できているか。	①数学の朝学習の充実とスタディサプリやドリルパーク等の情報端末を活用した基礎学力の向上、反転学習等も含めた家庭学習の充実を図る。(個別最適な学び) ②様々な情報を収集し適切に要約したり、説明したりすることに全教科等で取り組む。	①学校評価「授業でできた、わかったという実感が持てたか」95%以上 ②学校評価「家庭学習に取り組んでいるか」80%以上 ③市学調質問紙 ICT を活用した学び全項目90%以上。 ④市学調質問紙「地域や社会で起きていることに関心がある」85%以上。	①88.2%へ低下。特に1年生の否定的回答が15%で大きな課題。 ②72.4%。R4比5%増。 ③学校評価による授業時のPCの活用状況はR4比3.5%増。(市学調の結果未定のため) ④全国学テの同様の質問紙結果では、全国比10%増(市学調の結果未定のため)	B	・授業でできた、わかったと実感させるためには、内容や達成目標も含め再検討が必要。家庭学習についても、PCの活用や、やる気にさせる仕組み、評価する仕組みが必要。定期テストの意味づけを問い直し、中間テストを廃止し、単元別章末テストを充実させ学習の習慣化を図る。 ・総合的な学習の時間の改善を継続し、教科横断的で社会的課題とリンクした探究活動を外部人材、機関と連携しながら取り組んでいく。 ・SDGs、STEAMS教育の視点を取り入れたキャリア教育、校外行事、地域資源等を組み合わせ、既存の教育活動に新しい視点を加えた教育活動に取り組む。	小学校よりも中学校の学習内容が難しくなることや、生徒自身の心身の変化などにより、思い通りに学習に取り組めないことも影響するのではないかと。次年度への課題と改善策で「わかった、できた」と実感させるため、内容や達成目標の再検討に期待している。学ぶことの意味と楽しさを実感させる取組について学校の実施状況は適切であり、大いに評価できる。次年度も継続した取り組みを期待したい。	
2	<現状> ○令和4年全国学力・学習状況調査、質問紙「先生はあなたのよいところを認めてくれる」「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている」肯定的な回答は全国平均を10P以上上回っている。 ○学校評価生徒アンケート「生活の決まりを守って学校生活を送っている」肯定的回答95%。 <課題> ○令和4年全国学力・学習状況調査、質問紙携帯やスマホでSNSや動画視聴を平日1時間以上行っている83%(全国より7P上回る) ○心の不安を訴える生徒は増加傾向にある。アンケート調査だけでなく常日頃からの声掛け、注意深い観察、教職員同士の密な情報共有、関係機関との日常的連携が必要な状況である。	・学級会や生徒会、体験的活動の充実により、自己決定の場を多く設定できているか。 ・生徒一人ひとりに寄り添い、大切にすることを教育支援がなされているか。	①1時間の授業の中に生徒が自己決定する場面を必ず設定し、生徒の自己肯定感や効力感を高める工夫を行う。 ②激変する社会の変化に対応したキャリア発達を促す体験的活動を工夫し、将来への展望を持たせる。(未来ワーク、未来の先生等) ③地域防災、交通安全など身近な安心安全を考える体験的活動を実施。	①学校評価生徒アンケート「仲間のよさを理解し、お互いを認め合っている」98%以上 ②学校評価保護者アンケート「お子様の困り事や悩み事に対し学校は適切に対応していますか」85%以上。 ③学校評価生徒アンケート「片柳中は落ち着いた環境ですが」85%以上。	①目標値にはわずかに届かず97.1%昨年度とほぼ同様。 ②78.3%R4比4.7%減。参考までに学校評価生徒アンケート「困ったことや悩み事を相談できる大人はいますか」否定的回答者が2年で11%とやや高くなっている。 ③92.7%目標は達成したがR4比3%減。教室掲示の張り替え、理科室機の修繕、換気扇扇機修繕等実施	B	・日々の生徒への声掛けの工夫。授業や行事等で、生徒のやりたいこと、思っていることの実現をめざす。自己決定場面の意図的設定や振り返り活動を充実させる。 ・体験的、実践的なキャリア、防災教育、交通安全教育を継続。 ・教室環境の整備、修繕等を重点的に継続して実施。 ・年々保護者対応に苦慮する状況が見られる。丁寧な説明と寄り添った言動を心掛け、地道に信頼関係を構築していくしか方法はない。 ・発達心理、児童心理についての知見を深め、教員の価値観を一方向的に示すのではなく、コーチングの姿勢で生徒、保護者対応にあたる。	安心・安全な教育環境の整備、体験的活動の取組や自己決定の場面の設定など、より充実させ、心豊かな生徒の育成をお願いしたい。学校も保護者対応に苦慮されている状況は心配である。保護者との信頼関係の一層の構築に向けた地道な取組を引き続きお願いしたい。また、今後、地域として何か協力できることはないか考えていきたい。	
3	<現状> ○学校運営協議会で部活動地域移行や公共施設将来構想などの熟議を実施。コミュニティースクールのさらなる質の向上について検討中。 ○地域行事が夏祭り、ふれあい祭り等再開されてきた中、生徒の地域ボランティアへの意識は高まってきている。 <課題> ○部活動地域移行の実証が終わり、本格的開始に向けた課題の整理と解決策が必要 ○コミュニティースクールの質の高まり	・義務教育学校に向けて小中一貫教育のさらなる推進がなされているか。 ・部活動地域移行に向けて課題解決が図られているか。	①発達段階に応じた生活面、学習面での共通取組事項の実践や児童・生徒との交流を実施。 ②地域ボランティアへの生徒の参加を推進し、地域貢献に関する学習活動を実施。	①つぼみの日以外の児童生徒同士の交流を複数回実施。 ②学校評価生徒アンケート「今年度ボランティア活動に参加したことがありますか」95%以上。	①つぼみの日の模擬授業を3教科で実施。子ども会議での児童生徒同士の交流、土チャレでのパソコン部の指導、片小PTAまつり生徒ボランティア参加、生徒会、児童会あいさつ運動実施。 ②88%。目標値には届かなかったが、R4比23%大幅増。 ③部活動の主体をかたやなぎクラブへ9月までに移行を実施。 ④学校評価保護者「学校は地域と一体となって教育活動を進めていますか」90%以上。	①8月より市教委より委託された事業者が指導費を支払う形で、かたやなぎクラブの活動として土日の部活動地域移行を実施。 ②90.3%目標値達成	B	・小中連携について課題も多いが、教員同士の授業参観や交流、児童生徒同士の交流を継続していく。 ・地域ボランティア活動は生徒たちに貴重な経験の場となっており、自治会ごとの行事にも積極的に参加させていきたい。 ・地域移行については実践したことで明確化した課題もある。指導者不足、金銭的支援など検討が必要。 ・学校運営協議会を支援する学校地域協力隊を組織する必要がある。	部活動地域移行については指導者不足等の課題克服に向け、地域が協力し指導者の発掘に努力しなければと考えている。生徒が地域事業にボランティアとして活動されており、受け入れられている地域の方々から地域力の向上が図られ高い評価となっている。今後も受け入れ側の対応方法を工夫し、期待される存在として前面に出していく必要がある。
4	<現状> ○在校時間の縮減が図られつつあるが、働き方改革をまだまだ実感できない状況が見られる。 <課題> ○情報端末のよりよい活用や機器の故障や通信障害等への対応が必要である。 ○STEAMS教育や個別最適な学びや協働的な学びの一体化に向けた授業改善について教科等の特性も踏まえた研修が不足している。 ○業務のより一層の効率化、軽減が必要である。	・ICTの活用がより効果的に意味あるものになっているか。 ・新しい教育情報の収集に努めているか。 ・業務のより一層の効率化と削減が図られているか。	①全国的な研究会や講演等へのオンラインも含め積極的な参加。最新の教育情報収集し、自己研鑽するための時間の確保。 ②令和5年度新たに策定した教育課程の下、ICT活用の推進と業務の効率化を図る。 ③一層のペーパーレス化、ICT活用による会議の効率化と時間短縮、計画的年休や定時退勤日の確実な実施。	①教職員人事評価、研修に関する自己評価Aの教職員が50%以上。 ②新しい教育課程について教職員学校評価で肯定的回答80%以上。 ③学校評価保護者アンケート「学校はICTを授業で活用していますか」90%以上。 ④印刷関係用品の使用量(用紙、インク、マスター等)の20%以上の削減。 ⑤全教職員年休取得10日以上。	①人事評価研修項目A評価ほぼ達成。自主的な国県市の研修への参加率は100%を達成。 ②目標値ほぼ達成。朝時程の改善、定例行事の改善が課題として明確化。 ③83.3%目標値届かず。特に1.2年生保護者の評価が低い。学級担任制である小学校の活用状況と比較し低くなっているのでは。 ④ペーパーレス化は進めたが数%の削減に止まり目標値に届かず。 ⑤目標は達成出来なかったが、全教職員平均は13日となり年休取得率はR4比8%増。	A	・日課表、定例行事の実施時期と内容の改善。自主研修の奨励を継続。 ・これからの新しい学校に対応した教職員の育成が急務。心理学的知見、ICT活用技術、社会的課題への関心や知識を深める必要がある。決まった知識を教え、決まった答えを求める授業だけでは通用しない。より創造的な授業を行うためには、時間的余裕と研修が必要である。そのために働き方改革をさらに進めること、人的物的支援がさらに必要である。	評価項目の達成状況にはおおむね満足している。ICTの活用も含め、新しい時代にふさわしい教育や学校の働き方改革について、継続的に業務を見直し、変化に対応する柔軟性を意識することが求められると考える。地域としても応援できることがあれば積極的にかかわっていきたい。	